

## 第3学年 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

期 日：平成26年10月28日（火）

指導者：松江市立第一中学校

神林 千枝美

### 1 題材名 「幼児の生活と家族」A（3）アイウ

### 2 題材の目標

幼児の遊び道具の製作や幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫できるようにする。

### 3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し創造する 能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
幼児の心身の発達や遊びに関心をもって幼児の観察や遊び道具の製作、幼児と触れ合う活動に取り組み、幼児と適切に関わろうとしている。	幼児の心身の発達に応じた遊び道具や遊び方、幼児との関わり方について観察したことを生かして考え、工夫している。	幼児の遊びと心身の発達との関わりについて観点に基づいて観察し、整理することができる。	幼児の心身の発達の特徴と遊びの意義について理解している。

### 4 学習の基盤

#### （1）題材観

少子化や家庭の機能が十分に果たされていない現代社会で大切にしたいことは、人との触れ合いや関わりであると考え。中学生という立場で、幼児の生活や家族の役割について理解したり、幼児との触れ合い体験を通して、幼児への関心を深めたりよりよい関わり方を身に付けたりすることは、現在そして将来において、幼児や家族のよりよい生活を育む上で意義があると考え。

そこで、本題材では、幼児の心身の発達についての学習や幼児触れ合い体験で観察したことを生かして、幼児の心身の発達に応じた遊びや遊び方を工夫して考える活動を設定し、生徒が幼児についての理解を深めるとともに、関わり方を工夫できる能力や態度を育てたいと考えた。

子どもの成長やコミュニケーションを促す遊び道具には、市販品、自然の素材、身の回りのものなど様々な種類がある。既成の遊び道具に触れる機会が多い現在の実態を考え、身の回りにあるハンカチを用いた遊び（ハンカチ遊び）をとりあげた。ハンカチは、幼児が毎日使う身近なもので、洗濯できるので衛生的であり、安全で収納もしやすく手軽に遊び道具になる。また、大きさや色、枚数などの条件を変えることで、遊びや遊び方を工夫できるよさがある。

#### （2）生徒観

省略

#### （3）指導観

幼児と触れ合う経験が少なく、幼児との関わりに不安をもつ生徒がいることから、指導計画の早い段階で幼児と直接的な触れ合うことで、幼児への興味・関心を高め、具体的なイメージや目的意識をもってその後の学習に取り組めるよう計画した。幼児触れ合い体験前には、DVDを視聴し、幼児との関わり方のポイントや心構え、注意点などを具体的に理解し、少しでも不安を取り除いた状態で幼児触れ合い体験ができるようにした。

また、幼児触れ合い体験が短時間しか設定できないので、幼児触れ合い体験で一緒に遊んだ幼児（対象児）のためにハンカチ遊びを考える学習活動を設定し、心身の発達に応じた遊びや遊び方を考え、工夫できるようにする。遊びを考えた後は、遊びの提案レシピ（遊びの提案書）を作成する。

提案レシピには、遊びの名前、遊び方、説明図、おすすめのポイントを記入する。おすすめのポイントには、遊びで身に付く力、遊びのよさや面白さ、遊び方のバリエーションなどを記入する。遊び方や説明図を記入する過程で、遊びをイメージすることができ、よりよい遊びになるよう考えを深めることができる。

製作したハンカチに遊びの提案レシピを添えて幼児にプレゼントすることを目指して、目的意識をもって意欲的に学習に取り組めるようにした。また、幼児の保護者や先生方に遊んだ感想を記入してもらい、学習成果を生徒にフィードバックできるよう計画している。そして、一人一人の遊びの提案レシピを集約した「遊びのレシピ集」を作成し、幼児の保護者や先生方に向けて発信する。

前時では、対象児の特徴をワークシートに整理し、本時で遊びを考える際の手がかりを作っておく。整理する項目は、年齢、興味・関心、好きな遊び、手先や体の動きの特徴、言葉の特徴、関わり方の特徴、心の発達の特徴や様子の7項目である。なお、この7項目がハンカチ遊びを考える時の視点にもなる。

本時は、対象児の心身の発達に応じたハンカチ遊びを考え、工夫することがねらいである。ハンカチ遊びの経験がなく、考えが浮かばない生徒もいることが予想されるため、ハンカチ遊びを例示し、全体でハンカチを使った遊びを行う。その後、幼児の心身の発達について学習したことや前時に整理した対象児の特徴を踏まえてハンカチ遊びを考える。

学習形態を、個人思考→グループ協議→全体発表と段階を踏むことで、自分の考えをもった上で思考を深めたり広げたりできるようにしたい。個人思考の段階では、ハンカチを操作しながら考えるようにする。また、思考の流れがスムーズになるように、次のようにワークシートを工夫した。

- ・自分の考え、友達のアドバイス、改善した考えが順に記入できる形式にする。
- ・自分の考えがもてるように、遊びを考える際の視点、改善点のアドバイスの視点を明記する。
- ・考えを個に応じた方法で記入できるように、言葉、図などを用いて表現できるようにする。
- ・根拠を添えて説明できるように、文型を例示する。

全体発表の場面では、対象児の実態による個人差があるため、遊びによって付けたい力に着目して意見を取り上げ、考えを広げたり深めたりできるようにする。

## 5 指導と評価の計画（全13時間）

時間	○ねらい ・学習活動	評価規準・評価方法			
		生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
1	○幼児の成長や生活は家族に支えられていることに気付く。 ・自分の幼児期について振り返る。				幼児の成長や生活は家族に支えられていることに気付いている。 <b>【ワークシート】</b>
2 3	○幼児の心身の発達の特徴や基本的な生活習慣の習得、それを支える家族の役割について理解する。 ・幼児の心身の発達の特徴や基本的な生活習慣の習得、それを支える家族の役割についてまとめる。				幼児の心身の発達の特徴や、基本的な生活習慣の習得、それを支える家族の役割について理解している。 <b>【ワークシート】</b> <b>【ペーパーテスト】</b>

4 5 6	<p>○幼児触れ合い体験を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や観察したことを生かして関わり方を工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児触れ合い体験のDVDを視聴し、計画を立てる。</li> <li>・幼児触れ合い体験をする。</li> <li>・自分の設定した課題に対して振り返り、観察したことや関わり方についてまとめる。</li> </ul> <p>(※家庭で幼児触れ合い体験のレポートを作成する。)</p>	<p>幼児触れ合い体験を通して、幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。</p> <p><b>【観察】</b></p>	<p>幼児との遊び方、関わり方について計画を考え、工夫している。</p> <p><b>【ワークシート】</b></p>	<p>幼児の遊びや幼児の発達について、観点（行動、言葉）に基づいて観察し、整理することができる。</p> <p><b>【ワークシート】</b></p>	
7 8	<p>○幼児にとっての遊びの意義について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の一日の生活や遊びの意義を知る。</li> <li>・幼児の遊びの種類や役割、遊びの中で育つ力について知る。</li> <li>・幼児の遊びを豊かにするおもちゃや遊び場所について考える。</li> </ul>				<p>幼児にとっての遊びの意義について理解している。</p> <p><b>【ワークシート】</b> <b>【ペーパーテスト】</b></p>
9  10 本 時	<p>○幼児の心身の発達に応じたハンカチ遊びを考え、工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児触れ合い体験で一緒に遊んだ幼児（対象児）の特徴を整理する。</li> <li>・幼児（対象児）にふさわしいハンカチ遊びを考え、グループで検討する。</li> </ul>		<p>幼児の心身の発達に応じたハンカチ遊びについて考え、工夫している。</p> <p><b>【ワークシート】</b> <b>【観察】</b></p>	<p>幼児の遊びや心身の発達について視点（年齢、興味・関心、遊び、手先や体の動き、言葉、関わり方、心）に基づいて整理することができる。</p> <p><b>【ワークシート】</b></p>	
11	<p>○ハンカチ遊びの提案レシピ（遊び方の提案書）を考え、工夫している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンカチ遊びの提案レシピを作る。</li> </ul>		<p>幼児の心身の発達に応じたハンカチ遊びの遊び方を工夫して、提案レシピを考える。</p> <p><b>【ワークシート】</b></p>		

12	○意欲的に製作に取り組もうとしている。	遊び道具（ハンカチ）の製作を通して、幼児に関心をもっている。			
13	・遊び道具（ハンカチ）を製作する。 ・提案レシピを添えて、プレゼントする。	【観察】			

※ ペーパーテストについては、ある程度の内容のまとめりに実施する。

## 6 本時の学習（10 / 13時間）

### （1）本時のねらい

幼児の心身の発達に応じたハンカチ遊びを考え、工夫することができる。

【生活を工夫し創造する能力】

### （2）本時の展開

学習活動	教師の支援等	評価規準・評価方法
<p>1 本時の学習内容の確認とハンカチ遊びの体験をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>幼保園で一緒に遊んだ幼児（対象児）にふさわしいハンカチ遊びを考えよう。</p> </div> <p>・ハンカチ遊びを、全員で体験する。 例：バナナ作り、ボール投げなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習を簡単に振り返り、本時の課題を知らせる。</li> <li>・ハンカチ遊びを例示し、全体で体験させる。</li> <li>・心身の発達について学習したことや対象児について観察したことを生かして考えることを押さえる。</li> <li>・ワークシートに沿って、遊びを考える際の7つの視点（年齢、興味・関心、好きな遊び、手先や体の動きの特徴、言葉の特徴、関わり方の特徴、心の発達の特徴や様子）を確認する。</li> </ul>	<p>幼児の心身の発達に応じたハンカチ遊びについて考え、工夫している。</p> <p>【ワークシート】 【観察】</p>
<p>2 対象児にふさわしいハンカチ遊びを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンカチを操作しながら個人で考える。</li> <li>・自分の考えをワークシートに記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記入に要する時間を考慮し、優先して記入する項目（遊びで育つ力、遊び方の説明、工夫したところ）を指示する。</li> <li>・個に応じた方法で記入できるように、言葉や図などを用いて考えを記入できるワークシート（アイデアシート）を用意する。</li> <li>・考えが複数もてた生徒にはワークシート（アイデアシート（その2））に記入させる。</li> <li>・考えが浮かばない様子の生徒には、対象児の特徴を想起させたり、ハンカチ遊びを例示したりする。</li> </ul>	
<p>3 考えたハンカチ遊びを発表し、改善する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4人グループで発表する。</li> <li>・改善点をアドバイスし合う。</li> <li>・ハンカチ遊びを改善する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の発達について学習したことや対象児の観察に基づいてアドバイスするよう助言する。</li> <li>・改善点は、朱書きするよう指示する。</li> </ul>	

<p>4 改善したハンカチ遊びを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象児の実態による個人差があるため、遊びによって付けたい力に着目して意見を取り上げ、考えを広げたり深めたりできるようにする。</li> </ul>	
<p>5 本時の学習内容を振り返り、ワークシートに自己評価を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の考えや工夫点などを認め、次時の学習への意欲付けをする。</li> </ul>	

(3) 本時の評価

十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への手立て
<p>幼児の心身の発達について学習したことや幼児触れ合い体験で観察したことを生かして、対象児の心身の発達に応じたハンカチ遊びや遊び方を自分なりに工夫して考えたり、根拠を明確にして改善点についてアドバイスしたりしている。</p>	<p>幼児の心身の発達について学習したことや幼児触れ合い体験で観察したことを生かして、対象児の心身の発達に応じたハンカチ遊びや遊び方を自分なりに工夫して考えている。</p>	<p>前時までにまとめたワークシートを見て、対象児の心身の発達や幼児触れ合い体験での様子を想起させ、ハンカチ遊びや遊び方を考えることができるようにする。ハンカチ遊びの具体例を提示する。</p>

7 研究の視点

次の①②は、生徒一人一人の考える力を伸ばすのに有効だったか。

①教材開発

身の回りにあり手軽に遊び道具になること、生徒一人一人が学習したことを生かして自分なりに遊びや遊び方を工夫できること、遊びや遊び方を考える段階で具体物の操作が可能であるという条件を備えた教材としてハンカチ遊びを取り上げた。

②指導方法

学習形態は、思考を深めたり広げたりするために、個人思考→グループ協議→全体発表と段階を踏む。考える場面では、一人一人が考えをもち、思考を促せるようなワークシートを活用する。個人思考の段階では、操作しながら考える活動を取り入れる。